

**CONTENTS**

- 活動報告・各種会議議事録
- 会員動静
- 学会関連カレンダー
- 学会主催会議などの詳細
- 「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」のご案内
- 「農業について知ろう」ウェブサイトのご案内
- 講師派遣のご案内
- 日本農薬学会第49回大会のご案内
- 農業科学研究奨励金制度のご案内
- 会費の自動引き落とし登録をされている会員の皆様へ

**令和5年度 第3回常任評議員会議事録**

日時：2023（令和5）年9月9日（土）13:00～14:50

方法：対面とオンラインのハイブリッド開催

出席者：16名（第49回大会組織委員長を含む）

欠席者：なし

**議事**

I. 令和5年度第2回常任評議員会議事録を確認した（メール審議にて確認済み）。

**II. 経過報告および議案****1. 第49回大会（奈良）について**

- ・2024年3月14日～16日に、なら100年会館および近畿大学奈良キャンパスにて開催予定の第49回大会について、準備状況が大会組織委員長から報告された。

**2. 財務関係**

- ・2023年1月1日～8月15日の期間における収支予算管理報告があり、順調に推移しているとの説明があった。
- ・今後のインボイス制度への対応に関して、日本農薬学会は事業規模が小さいため、当面は免税事業者としての事業運営を行い、インボイス制度には対応しない予定であるとの説明があった。

**3. 法人化関係**

- ・日本農薬学会の法人化に関する打合せを2023年8月3日および8月10日に行った。
- ・一般社団法人を目指していること、また2025年3月の移行を目指しているとの説明があった。
- ・法人化に向けて定款・細則・規程等の大幅な見直しが必要と説明された。

**4. 学術小集会委員長からの連絡**

- ・本日の常任評議員会に引き続いて、学術小集会委員長との懇談会を開催予定との説明があった。

**5. 編集委員会**

- ・2023年8月5日に行われたJPS常任編集委員会について報告があり、JPSへの投稿、アクセス状況、IFの推移について説明があった。
- ・令和6年度論文賞受賞候補論文の選出状況について説明があった。

**6. 学会賞受賞者選考委員会**

- ・日本農薬学会賞の選考状況について説明があり、今後は受賞候補者を選定した後に評議員による決定投票を実施予定との説明があった。
- ・日本農薬学会から日本農学賞および日本農学進歩賞へ候補者を推薦したことについて説明された。
- ・その他の学術賞や研究助成について、一斉メールにて会員に情報提供を行ったと報告された。

**7. 農業科学研究奨励金について**

- ・2024（令和6）年度の奨励金の募集を間もなく開始予定との説明があった。

**8. 日本昆虫科学連合、日本植物保護科学連合**

- ・2024年に京都にて開催予定の国際昆虫学会議International Congress of Entomologyについて、すでに一般発表の申し込みが始まったとの説明があった。また同会議についての広報を日本農薬学会にて実施してほしいとの依頼があったことが説明された。
- ・2023年12月2日にオンラインで開催予定の学術会議シンポジウム「害虫・病原体・雑草に対する作物の耐性強化研究の進展」について説明された。

9. 公益財団法人農学会，一般社団法人日本農学会
- ・2023年10月7日にハイブリッドで開催予定の日本農学会シンポジウム「激動する社会と農学」について説明があった。
  - ・2024年度日本農学会シンポジウムのテーマに関して，日本農薬学会からの提案は選に漏れたとの報告があった。この結果を基にテーマを改訂して，来年度のシンポジウムのテーマを提案する予定であるとの報告があった。
  - ・2024年度日本農学賞受賞候補者について，日本農薬学会からも候補者を推薦予定と説明された。
10. 後援および協賛事業について
- ・第3回殺虫剤抵抗性シンポジウムへの後援，および第51回構造活性相関シンポジウムへの協賛について報告された。
11. 入退会の報告
- ・2023年7月1日～8月31日の期間における入退会の報告があり，正会員6名，学生会員1名，海外会員2名，および団体会員1社の入会が承認された。
12. その他
- ・学会ウェブサイトのリニューアルを検討しており，いろいろなパターンで見積をとったことが説明された。
  - ・ISBNの取得申請の流れについて説明があり，ISBN出版者記号としては7桁（ISBNコードは10点まで発行可能）を検討しているとの報告があった。
  - ・日本農薬学会50周年記念出版における原稿様式の説明があった。

## 令和5年度 学術小集会委員長との懇談会 議事録

日 時：2023(令和5)年9月9日(土) 15:00～16:00

場 所：対面とオンラインのハイブリッド開催

出席者：20名

欠席者：1名

議 事：

### 1. 小集会活動報告および活動予定

各学術小集会より，今年度の活動方針について以下のように説明があった。

#### 農薬残留分析研究会

2023年11月13日～14日に，長野県長野市にて第46回農薬残留分析研究会を開催予定である（対面開催）。

#### 農薬製剤・施用法研究会

2023年9月28日～29日に，なら100年会館（奈良県奈良市）にて第42回農薬製剤・施用法シンポジウムを開催予定である（対面開催）。

#### 農薬環境科学研究会

2023年9月14日～15日に，愛媛県松山市にて第40回農薬環境科学研究会を開催予定である（対面とWebのハイブリッド開催）。

#### 農薬生物活性研究会

2023年4月21日に，第40回農薬生物活性シンポジウムを開催した（オンライン開催）。

#### 農薬デザイン研究会

2023年11月22日に，大阪府大阪市にて第37回農薬デザイン研究会を開催予定である（対面開催）。

#### 農薬レギュラトリーサイエンス研究会

2023年12月18日に「北とびあ」にて第30回農薬レギュラトリーサイエンス研究会を開催予定である（対面開催）。

#### 農薬バイオサイエンス研究会

2023年11月17日に，東京農工大学府中キャンパスにて第24回農薬バイオサイエンス研究会を開催予定である（対面開催）。2024年3月に，第49回大会と共催で第25回農薬バイオサイエンス研究会を開催予定である（対面開催）。

### 2. 常任評議員会・専門委員会から小集会への連絡・要望など

#### 1) 小集会活動経費関係の書類作成について（村井総務より）

書類提出に関する今後の予定に関して，以下の説明があった。

- ・令和6年度学術小集会活動経費補助申請書及び予算書の提出

- ・令和5年度の報告書（活動報告書，収支決算状況報告書など）

#### 2) 農薬科学研究奨励金について（飯島副会長より）

来年度の奨励金の募集が間もなく始まることが説明された。

#### 3) 日本農薬学会50周年記念出版について（與語副会長より）

原稿の様式について説明があった。

#### 4) 講演要旨のデータベース登録について（飯島副会長より）

学術小集会の研究会等での講演について，学会ウェブサイトの講演要旨データベースに未登録の講演要旨があれば提出していただきたいとの依頼があった。

#### 5) 農薬学会への入会勧誘について（飯島副会長より）

学術小集会の際に，農薬学会への入会を勧誘していただきたいとの依頼があった。また，それに関連する資料（パワーポイント）が電子配布された。

#### 6) インボイス制度への対応について

インボイス制度には対応しない方針であり，外部か

らの問い合わせなどは本部に連絡してもらうことを  
学術小集会委員長に通知した。

### 第217回常任編集委員会 議事録

日 時：2023年8月5日(土) 15:00~17:00

場 所：日本植物防疫協会地下1階会議室

出席者：11名

欠席者：4名

報告事項：

1. 前回議事録の確認
2. JPSへの投稿，アクセス状況，Impact Factor (IF) の  
推移 (2019～2023) について  
2022年のIFは2.4であった。R5年7月30日までに44  
編の投稿があった。  
公開された論文数の内訳は，Review: 1編，Regular  
article: 11編，Brief Report: 6編であった (Vol. 48-1か  
ら Vol. 48-3)。

審議事項：

1. 令和6年度論文賞受賞候補論文の選出  
事前に28名の編集委員より29件の推薦を受け，8編  
の推薦があった。  
上位3編から常任編集委員による再投票により1位と  
2位を決める予定であったが，今回は2位と3位の得  
票数に開きがあるため，上位2編より一人1編を選ぶ  
方法で投票を行った。
2. 著者校正の扱いについて  
英文論文の投稿においては著者がNativeでない場合，  
投稿前に著者の責任で英文校閲を受けることを推奨し  
ているが (EMシステムのAdditional Informationに  
記載)，未校閲の原稿も投稿されており，特に海外か  
らの投稿に未校閲のケースが多い。英文校閲を受けて  
いない原稿に対する編集事務局の対応方法について，  
常編メンバーから以下の意見集約を行った。
  - ・著者が英文校閲を受けることを必須とする場合，投  
稿規定に明記する必要があるが評議員会で諮る必要  
があるため，投稿規定の改訂は次回の評議員会まで  
待たねばならず，即座の対応が出来ない。
  - ・著者はInformations for Authorsを参照して論文作  
成していると思うので，投稿規定ではなくInfor  
mations for Authorsに著者側の責任で英文校閲を受  
けることを記載する。
  - ・英文校閲していない原稿は査読開始時に各部門長に  
伝える (理由がある場合，その旨も)。各部門長が  
英文校閲必要と判断した場合，事務局と編集委員長  
に提言し，その場合は一度却下して校閲後の再投稿  
を促す。

当面は上記方法で編集を運用し，不都合が生じる場  
合は投稿規定の改訂を検討する。

#### 3. リポジトリ対応について

HPのリポジトリ取り扱い書がH24年度制定であるた  
め，内容更新を検討する。

#### 4. 副編集委員長の設置について

不測の事態に備えて副編集委員長を置いた方がいいの  
ではという意見があり，常任編集委員会メンバーから  
常任評議員に2名入っているのが望ましいとの意見も  
あり，審議の結果，元場委員に副編集委員長に就任し  
て戴くことで承認を得た。

#### 5. 英文超過頁の過料について

英文誌は47-4を最後に冊子体での発行を終了したが，  
その後も従来規定のまま超過頁の過料を請求してい  
る。そこで超過料金に存続について審議した。

- ・国際文献社に依頼しているPDF化に要する費用は  
ページ数に関係なく一定料金であるため，印刷体で  
はないので超過料金は徴収しなくて良いという方針  
になった。レイアウト後に判明するページ数で判断  
するのは著者にとって困難であるとの意見もあった。  
今後，文字数と図表数で制限をかける案も出された。

その他)

#### 1. JPSのReview執筆依頼状況について

Reviewの執筆候補者 (6名) が挙げられており，継続  
的に打診を依頼することとした。

#### 2. 和文誌の記事について

- a) ショートレビュー：48-2号に2件を掲載した。  
光野秀文氏 (東大先端研)：「昆虫嗅覚受容体を利用  
したカビ臭簡易検査システム」  
安倍真人氏 (愛媛大農)：「ホスファチジルグリセ  
ロールとシアノバクテリア」
- b) 読み物企画：
  - ・5月締め (48-2号掲載)。タイトルは「千葉県の  
秋冬どりネギ栽培における黒腐菌核病の防除」で  
山本幸洋委員が執筆した。
  - ・11月締め (49-1号掲載) については長野県の担  
当者に特別講演をまとめる形で執筆する予定。
  - ・その他，元FAMIC担当者に東南アジアの情報を  
打診中。
- c) ミニレビュー (学会講演関係)：48-2号に3件を掲載  
(1)「未来開拓シンポジウム」：取り纏め担当は松田先生。  
(2)「生命科学の新技术に学び，活かす」：取り纏め担  
当は太田広人氏 (崇城大)。  
(3)「天然物化学は学びの宝庫」：取り纏め担当は矢島  
新氏 (東京農大)。  
和文誌に関しては幹事校正を8/4に国際文献に送付し  
た。8/20に発刊予定。

安藤和文誌担当委員より、和文誌2号はシンポジウムの記事等でページ数を確保できるが、和文誌1号は大会や学術小集会関連記事がないためにページ数が少なくなる懸念が指摘され、対策として編集委員には和文誌への解説記事などの投稿依頼の要請された。

### 令和6年度学会賞受賞者選考委員会 第2回委員会議事録

日 時：2023（令和5）年9月23日（土）16:05～17:50  
場 所：オンライン会議  
出席者：12名（委員長を除く）  
議 事：

1. 選考委員の2/3以上が出席しており、会は成立していることを確認した。
2. 内規等を確認した。
3. 業績賞（研究）、業績賞（技術）、および奨励賞の各候補について厳正に選考を行い、学会賞受賞者選考委員会による投票を実施した結果、業績賞（研究）1件、業績賞（技術）1件、および奨励賞1件の授賞候補を決定した。
4. 論文賞については、編集委員会より推薦された論文を授賞候補と決定した。
5. 上記授賞候補に対して、評議員による授賞可否の投票手続きに入ることを確認した。
6. その他
  - ・外部の各賞について、報告・連絡があった。
  - ・内規の変更を含む今後の予定について、相談があった。

### 会 員 動 静

（令和5年7月1日～令和5年8月31日）

#### 入 会

##### 正会員

五十川裕記 大井隆浩 務川重之 谷 修治  
君嶋 葵 齊藤 雄

##### 学生会員

樋口 廉

##### 海外会員

Reyes CastilloNicolas Ribeiro Marcia

##### 団体会員

株式会社EAリサーチ

（受付順）

#### 退 会

##### 正会員

前川祐一 喜多 知 草場友之 江崎竜太郎

SUMINTO, Syaefudin

##### 学生会員

竹腰沙紀 伊藤晴弥

### 学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催、共催、協賛、後援する会議等

#### 2023年

##### 12月

#### 16日（土）残留農薬分析セミナー 2023年

場所：日本植物防疫協会 会議室（web配信はございません）

日時：2023年12月16日（土）10時00分～17時00分

定員：25名（先着順）

申込締切：11月30日（木）【必着】

[https://www.pssj2.jp/overview/semina/bunseki\\_23.html](https://www.pssj2.jp/overview/semina/bunseki_23.html)

講義内容（予定）：

- ・残留農薬分析に係る法律と背景
- ・食品検査のための残留分析
- ・残留分析の手順と留意点
- ・試料前処理、抽出、精製、測定
- ・残留分析における精度管理と信頼性確保
- ・総合討論および質疑応答

#### 18日（月）第30回農薬レギュラトリーサイエンス研究会

主催：日本農薬学会、農薬レギュラトリーサイエンス研究会

会場：北とびあ [〒114-8503 東京都北区王子1丁目11-1]

<https://pssj2.jp/committee/regulatory/regula30.html>

#### 2024年

##### 3月

#### 14日（木）～16日（土）日本農薬学会第49回大会

主催：日本農薬学会

会場：なら100年会館 [〒630-8121 奈良県奈良市三条宮

前町7番1号]、近畿大学奈良キャンパス [〒631-

8505 奈良県奈良市中町3327-204]

<https://pssj2.jp/congresses/49/taikai49.html>

詳細未定 第25回農薬バイオサイエンス研究会（第49回大会と共催でシンポジウムを開催）

主催：日本農薬学会、農薬バイオサイエンス研究会

会場：近畿大学奈良キャンパス [〒631-8505 奈良県奈良市中町3327-204]

##### 11月

11日（月）～12日（火）第47回農薬残留分析研究会・第41回農薬環境科学研究会【合同開催】

場所：徳島県徳島市

学会主催会議などの詳細

第30回農薬レギュラトリーサイエンス研究会 開催案内

日 時：令和5年12月18日(月) 講演会 13:00~17:00, 情報  
交換会 17:30~20:30 (予定)

会 場：北とぴあ (〒114-8503 東京都北区王子1-11-1)

講演会はつつじホール (2F), 情報交換会はペガサスホール  
(15F), 対面形式のみ (Web配信は行いません。)

国内では改正農薬取締法の下, 農薬の再評価が開始されました。また「農薬の登録申請において提出すべき資料」の改正や審査ガイダンスの公表も進められています。一方, 欧米では持続可能性や生物多様性といった新たな価値観の下での化学物質評価の考え方や規制が次々と求められています。このような中, 日米欧における最新の農薬規制にかかわる情報をまとめて得る機会を設け, 農薬規制の国際的な動向を考えるシンポジウムを企画しました。

テーマ：日米欧における最近の農薬行政・規制の動向について考える

講演：

1. 2023 United States EPA overview (オンライン講演)  
Landis International, Inc. Ms. Lisa Setliff, and Mr. Roger Horton
2. これからの我が国の農薬行政  
農林水産省 消費・安全局 農産安全管理課 農薬対策室  
楠川雅史
3. 食品衛生に関わる農薬行政・規制に関する講演：タイトル未定  
厚生労働省 健康・生活衛生局 食品基準審査課 残留農薬等基準審査室 中村俊輔
4. EU Regulatory update (オンライン講演)  
SCC Scientific Consulting Company Dr. Dagmar Heibertshausen

詳細については, 適時, 学会Webサイトを更新し, お知らせいたします。

<https://pssj2.jp/committee/regulatory/regula30.html>

日本農薬学会農薬レギュラトリーサイエンス研究会  
第30回シンポジウム開催事務局

Email: PSSJ-RS-Sympo@iet.or.jp

「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」のご案内

日本農薬学会では, 精度の高い残留農薬分析を実施する上で特に配慮すべき事項を「Q & A」形式に取りまとめた「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」を出版しています。2003年に初版を発行以来, 好評を博して改訂を重ね, 現在最新版が改訂4版となっております。改訂4版では, 前3版出版以降の農薬登録制度の動向を反映させ, 最新の科学的知見を盛り込むよう全文の見直しを行ったうえで, 初学者の方にも, より読みやすくなるよう心がけて内容を再整理しました。また, 携行性を高めるために軽量化を図りました。前版と同様に残留農薬分析の基本やノウハウを得るための参考書として, さらに, 食の安全に関心をお持ちの幅広い方々に対しても, 農薬の規制についての理解の一助となるようお役立て頂けると幸いです。定価は3,000円です (送料別)。

購入申込み方法：

メールまたはFAXにて, 以下の日本農薬学会事務局に氏名, 所属, メールアドレス, 電話番号, 送付先住所, 購入冊数 (FAX申込みの場合はFAX番号) 等をご連絡下さい。また, メール等の件名には「問答あれこれ購入」と記入して下さい。折り返し請求書 (送料を含む) を同封し発送しますので, 振込みをお願いします。詳細は, 学会ホームページもご参照ください。

日本農薬学会事務局：

〒114-0015 東京都北区中里2丁目28番10号 日本植物防疫協会内

FAX: 03-5980-0282

MAIL: nouyaku@pssj2.jp

学会HP: [http://pssj2.jp/overview/book\\_zanryu.html](http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html)

※平成30年の農薬取締法改正に伴い更新が必要となった記事を新旧対照表として取りまとめました。学会ホームページ上 ([http://pssj2.jp/overview/book\\_zanryu.html](http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html)) で公開していますので, ご参照ください。



## 「農業について知ろう」ウェブサイトのご案内

日本農薬学会は学会ウェブサイト内に「農業について知ろう」というサイトを開設しています。このサイトでは、農業に関する理解を助けるため行政や公的機関などの情報を中心に紹介しています。

食品の安全に対する関心が高い中、家庭や学校など日常生活の中で農薬が話題となる機会も多いですが、関連する情報は散在しており、知りたい情報にたどり着くのに苦労することも少なくありません。そこで農薬のことを十分に理解するための多方面の情報を一元的かつ簡単に検索でき、食の安全や健康影響、環境影響などを考える際に利用できるポータルサイトとして運営しています。

このサイトでは、情報を必要としている方々に応じて小学生、一般の方、先生、農業・流通業関係者の4つのグループに分けて情報が整理されています。また、小学生向けには漢字にルビを振るとともに、分かりやすい情報サイトを選び紹介しています。さらに、情報は「規制」、「安全性」、「薬剤」、「環境・残留」、「農業」のカテゴリー別に分類されています。「規制」は農薬の登録や管理に係る法律、試験方法、農薬残留基準、食品の輸出入など、「安全性」は毒性、安全性、健康影響、リスク評価やリスク管理の考え方、「薬剤」は農薬の種類や特徴、農薬の使用法、「環境・残留」は農薬の残留、環境中の分解、環境生物への影響など、「農業」は効果、薬害、防除、農法などについて整理されています。また、キーワードからカテゴリーごと、あるいは、50音別・アルファベット順別に縦横に検索できる機能も備えています。農薬に直接関わらない子供たちや一般の方々に向けてだけでなく、農薬や農業の専門家の方々にも十分役立つような情報を収録する工夫がされています。

今後も新しい規制や技術、知見など収録情報の追加や更新を継続していきます。皆様にご活用いただけますようお願いいたします。

日本農薬学会のトップページや下記のアドレスからご覧ください。

<http://pssj2.jp/rikai/index.shtml>



## 講師派遣のご案内

日本農薬学会では、一般市民や農業、教育関係の方々に農業に関する知識や理解を深めていただくことを目的として、専門家を講師として派遣しています。派遣講師が行う講義の内容は、食料生産、作物保護、食品安全、環境影響、薬剤抵抗性、農薬製剤・施用法、農薬をめぐる諸問題等、ご要望にできる限り沿うようにしたいと考えておりますので、遠慮なくご相談ください。本活動にご興味がありましたら、学会ホームページ ([http://pssj2.jp/overview/semina/haken\\_16.html](http://pssj2.jp/overview/semina/haken_16.html)) をご参照のうえ、日本農薬学会事務局にご連絡ください。



## 日本農薬学会第49回大会のご案内

日本農薬学会第49回大会を、2024年（令和6年）3月14日（木）～16日（土）の3日間にわたって開催いたします。ここでは、総会・受賞講演・一般講演・シンポジウムなどを予定しております。本学会会員ならびに農薬科学にご関心をお持ちの皆様は、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

植物防疫関係2学会（日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会）および日本雑草学会と植物化学調節学会の正会員・学生会員の方は、例年通り、本学会会員扱いとなりますので、お近くのこれら学会員の方にも参加・発表をお誘いいただければ幸いです。また、非会員の方のご参加も歓迎いたします。

大会関係の記事は、PSSJ News Letterにおいてもご案内いたしますが、詳細は大会ホームページ（11月末公開予定）、あるいは会員メールにて随時お知らせいたしますので、最新の情報はそちらでご確認頂きますようお願い致します。なお、講演要旨集はpdfファイル形式の電子媒体としてのみ作成配信し、印刷物の配布は行いません。

## I. 開催場所

- なら100年会館（総会、授賞式、受賞講演、特別講演）  
近鉄奈良線：  
新大宮駅下車 徒歩約15分  
または奈良駅下車バス約5分または徒歩約20分  
JR関西本線：  
JR奈良駅下車 徒歩約5分
- ホテル日航奈良（懇親会・祝賀会）  
近鉄奈良線：  
奈良駅下車徒歩約12分  
JR関西本線：  
JR奈良駅下車 奈良駅西口直結
- 近畿大学奈良キャンパス（一般講演、シンポジウム、企業展示）  
（〒631-8505 奈良県奈良市中町3327-204）  
近鉄奈良線：  
富雄駅下車 奈良交通バス（近畿大学行き）約10分

## II. 会期および日程：令和6年3月14日(木)～16日(土)

月・日	午前	昼	午後	会場
3月14日(木)	総会・授賞式		受賞講演、特別講演 懇親会・祝賀会	なら100年会館 ホテル日航奈良
3月15日(金)	一般講演	ランチョンセ ミナー	一般講演、シンポジウム	近畿大学奈良 キャンパス
3月16日(土)				

## III. 特別講演およびシンポジウム（調整中）

### 特別講演

- 「大和を掘る—橿原考古学研究所の調査・研究—」  
東影悠（奈良県立橿原考古学研究所）  
「近畿大学での養殖魚研究（仮題）」  
澤田好史（近畿大学農学部水産学科）

## IV. ランチョンセミナーおよび展示

3月15日、16日には、一般講演の昼休み時間帯でランチョンセミナーを開催します。その2日間は、203教室にて企業展示も行います。

## V. 一般講演申込

一般講演の申込みは、本学会会員および先に記載のある4学会の会員のうち、令和6年度会費納入者に限ります。申込受付は、すべて大会Webページにて行います。申込者は、講演要旨フォーマット（A4, 1ページ）を大会ホームページよりダウンロードして、これに上書きする要領で要旨を作成してください（カラーでの作製も可とします）。詳細は、大会ホームページ（11月末公開予定）にてご確認ください。

申込開始日：2023年12月1日(金)

申込締切日：2024年1月12日(金)

なお1月12日までは、タイトルや要旨内容の変更が可能です。

一般講演申込は、1月12日までに参加登録と参加費の振込を行うことにより完了します。振込が確認できない場合は、一般講演登録は取り消しとなりますのでご注意ください。

## VI. 参加登録

2023年12月1日より、大会ホームページにて参加登録を受け付けます。参加登録、参加費の振込は大会当日まで受け付けますが、2024年2月1日を過ぎると参加費の割引が受けられず、また事前の参加証の送付もされません。

	会員種別	参加登録費	2月1日以降
大会	正会員	8,000円	10,000円
	学生会員	3,000円	4,000円
	非会員	13,000円	15,000円
懇親会	正会員	8,000円	8,000円
	学生会員	4,000円	4,000円
	非会員	8,000円	8,000円

- ・植物防疫関係2学会（日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会）および日本雑草学会と植物化学調節学会の正会員・学生会員の方は、本学会会員と同額の参加費となります。
- ・大会当日の大会受付では参加費の支払いや振込等ができません。
- ・一旦納入された参加登録費は返金いたしません。

## VII. 一般講演について

一般講演は、すべて会場で対面形式にて実施します。講演時間は1題15分（講演12分、質疑応答2分、PC接続時間1分程度）の予定です。

発表者は、講演会場に発表者自身のノートPCを持参いただき、ご自身でPCプロジェクターに接続・発表していただきます。詳細は、大会ホームページにてご案内致します。

## VIII. 広告、展示、ランチョンセミナー募集のご案内

引き続き、講演要旨集への広告掲載、企業展示への出展およびランチョンセミナーの開催等でご支援を賜りたいと考えております。本大会の成功のために、何卒ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。詳細および協賛趣意書が学会ホームページ (<https://pssj2.jp/congresses/49/taikai49.html>) にございますので、そちらもご確認ください。

日本農薬学会第49回大会組織委員会委員長

近畿大学農学部応用生命化学科 森本正則

E-mail: [masanori@nara.kindai.ac.jp](mailto:masanori@nara.kindai.ac.jp)

TEL: 0742-43-7162

## 農薬科学研究奨励金制度のご案内

日本農薬学会では、作物保護に必須の資材である農薬の研究を支えることで社会に貢献することを目的とし、その基盤となる化学と生物の領域も含め、広く農薬科学研究全般に対して農薬科学研究奨励金（1件上限50万円、年間3件を予定）の交付を行っています。現在、令和6年度分の申請を受け付けていますので学会ホームページ (<https://pssj2.jp/inside/grant23.html>) をご参照のうえ、日本農薬学会事務局にご連絡ください。なお、応募締め切りは令和5年11月30日（当日消印有効）です。

過去の採択課題：[http://pssj2.jp/inside/past\\_grant.html](http://pssj2.jp/inside/past_grant.html)

---

---

## 会費の自動引き落とし登録をされている会員の皆様へ

2024年度会費を、2023年12月6日(水)に引き落としいたします。前日までに指定口座へのご入金をよろしくお願いたします。

※2024年度分の自動引き落としの申込は締め切りました。2025年度分より自動引き落としを希望される方は学会事務局までご連絡ください。

日本農薬学会事務局：

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10 日本植物防疫協会内

E-mail: nouyaku@pssj2.jp

発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

FAX: 03 (5980) 0282

E-mail: nouyaku@pssj2.jp